

【概要】

2014年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【民間住宅ローン利用者編】(第3回)

I 調査の概要

本調査は、調査対象期間(2014年11月～2015年2月)に民間住宅ローン(フラット35を含む。)の借入れをされた方を対象とし、利用した住宅ローンの金利タイプや住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。(回答数:953件)

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 「全期間固定型」の利用割合は 27.1%とほぼ横這い、「変動型」は 41.7%と減少<p. 2>

- ・「全期間固定型」の利用割合は、27.1%(前回調査:26.7%)とほぼ横這い
- ・「固定期間選択型」は、31.3%(前回調査:29.4%)と増加
- ・「変動型」は、41.7%(前回調査:43.9%)と減少

(注)本調査項目は、隔月に速報として公表している「金利タイプ別利用状況」を、4か月ごとにまとめて確報として集計したものです。

2 今後1年間の住宅ローン金利見通しは、全体では「現状よりも上昇する」が減少<p. 9>

- ・今後1年間の住宅ローン金利見通し(全体)は、「現状よりも上昇する」が30.1%(前回調査:31.4%)と減少し、一方で「現状よりも低下する」は7.2%(前回調査:5.1%)と増加

3 利用した住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」が圧倒的に多い<p. 14>

- ・利用した住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」が65.3%(前回調査:68.2%)と圧倒的多数
- ・「将来の返済額をあらかじめ確定しておきたかったから」は、15.1%と前回の6番目から5番目へ上昇